



広島国際学院

現代社会学部に大学院を設置！

特集	リサイクル技術の開発研究	2・3
高校生向け「卒業研究発表会」	工学部	4
学生の国際交流	現代社会学部	5
相互評価を実施	短期大学部	6
高校から発信	高等学校	7
ロボット教室をひらく	高等学校部活動成績優秀者表彰	8
学生時代の思い出と社会人になって 思うこと・私の大学生活		9
自動車に「夢」賭ける 日本で学ぶ留学生の思い		10
「広島学事始め」		11
研究室紹介		12
本学大学院で初の外国人博士誕生 大学新評価の基準適合認定を受ける		13
大学の就職状況		14
自動車短期大学部・高校の進路状況		15
理事長退任・就任あいさつ		16

この大学に入れて幸せ者です、と微笑む！

自動車短期大学部 平成15年3月卒業 小堀優子さん

広報

第53号

平成15年4月1日発行

特集

リサイクル技術の開発研究

環境マテリアルプログラムや環境・生命化学プログラムでは、リサイクル技術開発を中心に教育・研究を続けている。平成16年度からは「バイオ・リサイクル」関連新学科も設立の予定である。リサイクル技術開発について紹介したい。

バイオテクノロジー関連技術開発

バイオ関連技術は近年重要性を増している。特にバイオエネルギーやバイオマスなど石油や化石燃料に代わる資源が重視され、ごみや古紙の再生など、従来は容易でなかったリサイクルも可能になりつつある。我が国でもバイオテクノロジーを次世代の新技术として捉え、国家施策として積極的に推進しはじめた。

環境・生命化学プログラム（バイオ研究室）では、遺伝子の解析や操作も含め、酒造り、食品製造、廃水処理などの基本バイオ技術を研究し、その多くを実用化している。



右がパン廃棄物を再利用して焼きあげたパン。左が普通のパン。パン廃棄物でイースト菌を造り、製造。普通のパンより甘くおいしい。

(1) パンから生まれた「パンチューハイ」!? エタノール生産



豚糞尿リサイクルによる5-アミノレブリン酸（ALA）の生産と植物生長促進効果。左端がALAなし。右3つがALA添加。じゃがいもの収量がALA30-300ppmの添加で150%増加。

タカキベーカリーとの共同研究で、コンビニやスーパーから回収される廃パンをイースト菌の原料として利用したり、発泡酒に再生する技術を開発した。甘口のおいしいパンと、香りのよい発泡酒ができる。

(2) 世界唯一！ 注目のバイオ菌

豚糞尿や農産廃棄物、食品製造下水汚泥を安全な除草剤、生長促進剤に変換するバイオ技術を開発した。

バイオ菌の生産する5-アミノレブリン酸（ALA）がこの効果をもたらすことを解明。平成11年度日本生物工学会技術賞を受賞した。コスモ石油(株)との共同研究で実用化されている。企業のレベルでは世界唯一である。最近ALAが癌の診断や治療に利用できることがわかり、この製造技術が注目されている。



環境・生命化学プログラム（バイオ系）の遺伝子解析、遺伝子組み替え実習

(3) 汚泥変じてプラスチック

太田川や広島湾の底に多量に蓄積したヘドロを利用し、特殊なバイオ菌で生分解性プラスチック（土の中で2～3年で溶けてなくなるプラスチック）に変換することに成功した。まだ基礎研究レベルだが、実用化は可能。

(4) 泥くさい実用研究

バイオ菌を使い、ヘドロからカドミウムやスズなどの有害重金属を回収する新技术を開発。実用研究のかたわら企業と連携した研究開発も行っている。なぜ重金属を回収できるか、遺伝子の仕組みを解析中。最先端の遺伝子研究でもある。

(5) 漂白技術もクリーンに

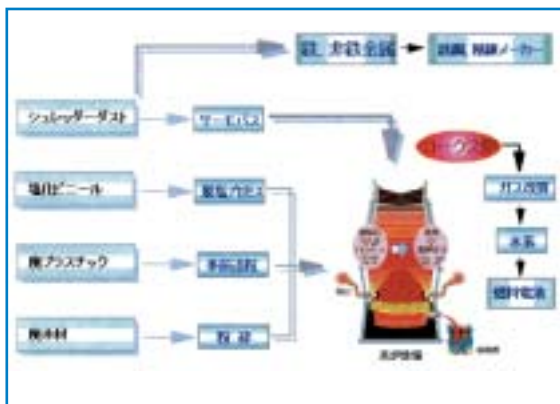
古紙再生、パルプ製造にあたっては、ダイオキシンなど有害環境ホルモンの発生がネックになる。これを完全に防止できるバイオ酵素を発見、塩素を使わない漂白技術を開発した。また、農産廃棄物からこの酵素を安価に製造し、地球に優しいバイオ技術を編み出した。現在、この酵素の関連遺伝子を解析中。

材料・資源リサイクル関連技術開発

環境、資源、廃棄物処理などの重い課題が繰り返し報道される。しかし実際には、特に日本人の伝統である繊細で豊かな感性が、優れた資源リサイクル技術開発に寄与している。



パン廃棄物からバイオ酵素の生産実験



シュレッダーダスト、塩化ビニール、廃プラスチック、廃木材の総合的リサイクル利用

(1) 産業廃棄物のリサイクル

各種リサイクル法、特に2004年から施行される自動車リサイクル法に伴い、メーカーにシュレッダー・ダストの再利用が義務づけられる。油、プラスチック、ビニール、各種金属等を含む「汚い」ダストである。鉄鋼・非鉄製錬業界が中心となって、これから有用金属を分離し、プラスチック等はコークス代わりとして製鉄に用いる（これにより炭酸ガスの発生が30%位軽減できる）といった技術開発が進められ、実用プラントが完成している。もはやシュレッダー・ダストは完全なる資源であり、鉄鋼業界等が新規巨大産業と位置づけている。

本学ハイテク・リサーチ・センターは「超高純度金属精製」を主目的とする一方、高純度金属の環境腐食、あるいは高温腐食という「環境と金属」のかかわりについても研究を進めてきた。同時に数年前より材料・資源のリサイクル問題にも取り組み、広島使用済自動車適正処理事業協同組合(LEEA)と連携し、解体・リサイクル技術に関する産学共同研究のあり方、あるいはリサイクル技術者育成のための教育のあり方を模索してきた。

大学にはハイテク・リサーチ・センターのような材料分析・計測といった高度な機器、あるいは極限環境を実現できる極低温、超高真空システム等がある。こうしたハイテク機器と操作技術は現場には不足している。本年度にはLEEAが広島にも「自動車リサイクルセンター」を立ち上げる予定になっており、本学大学院生の一人が技術要員としてこの新しい分野に挑戦する。まだまだ多くの技術開発が必要であり、何よりもリサイクル技術者の育成が急がれている。学生諸君の挑戦を期待したい。

(2) 金属や自動車もリサイクル



環境マテリアルプログラムの発表で、今村工学部長と討議



2月15日(土)、高校の生徒さんや先生方を対象に、各学科の4年生による卒業研究発表会をマルチビジョン講義室で行った。これは、工学部の卒業研究の一端を知っていただくために、昨年に引き続いて企画されたものである。今回、発表されたテーマは下記の8件であった。



- 「遺伝子組み換えでダイエット砂糖を作る」 今田 守亮 (電気工学科)
- 「HDPEがいしBurn-down防止対策と最適設計」 村上 隆則 (電気工学科)
- 「自習教材システムの開発」 沖本 英紀、岩佐 卓也 (電子工学科)
- 「遺伝的アルゴリズム(GA)を用いた論理回路の自動合成システム」 木原 英昭、谷口 雅也 (電子工学科)
- 「スターリングエンジンの設計と試作」 石田 功二、大森 怜 (機械工学科)
- 「多孔質内流動特性に関する研究」 奥本 真裕、六十里 茂樹、矢口 祐介 (機械工学科)
- 「衛星を利用した遠隔教育システム」 小田 将巳、岡田 旭生、山根 亮二、久岡 寛 (情報工学科)
- 「携帯電話によるパーソナルモニタリングシステムの開発」 横山 佳奈 (情報工学科)

ついついはまる！ おもしろロボコン授業 -



メディア情報通信学科1年生の講義「知能ロボット制御」が大好評。この授業は、まったく新しいタイプの創成型の教育プログラムである。ロボットコンテストを講義の中心にして、遊び感覚で取り組み、学ぶ楽しさを味わいながら、マイコンのプログラミング能力を身に付けることがねらい。

ロボットコンテストは、PIC(ピクと読む)というマイコンを使った、本学オリジナルの自走(自律)型ロボット(田中先生がすべて手作り)を使う。毎回走るコースや障害物の設定を変えて、ゴールまでのタイムや、ポイントを競う競技を行っている。ロボットはすべて同じ性能なので、コースをどう攻略するか、アイデアとプログラムの善し悪しが勝負の分かれ目となり、そこがたまらなく面白い。

この講義が評判となり、昨年12月には広島ホームテレビ報道部の取材があり、「げっきんライブ」で放送された。



面白さと集中力！ 試行錯誤！



緊張感！ 真剣な表情！

学内合同セミナーをひらく！

2月3日(月)・4日(火)に中野キャンパス学生会館で、工学部・現代社会学部の3年次生対象の「学内合同企業セミナー」を開催した。企業の人事採用担当者をはじめ、関係教職員の協力によりセミナーが実現した。2日間の延べ数で企業27社・学生540名と盛況となり、活気にあふれていた。各企業のブースでは企業の方が丁寧に説明し、学生たちはノットをとりながら真剣な表情で聞き入っていた。学生がこのセミナーで企業・業界研究を具体化し、就職活動に結実することを切望している。

日本を見つめ直す機会を与えてくれた！ ーカナダへのホームステイー

現代社会学部 3年生 うえだ なつみ 上田 奈津美



温かさを実感！ホームステイ

ブランド物にとびつく日本人！?

大学生活も3年目になりました。社会学に興味があってこの大学に入学したのですが、昨年は海外旅行を2度も経験するというまさに世界が広がった年でした。

1度目は9月、先生・先輩達20人ほどで行った韓国旅行。初めての海外旅行とあってすべてのことが新鮮でした。訪れたのが日本と親交の深い街(プサン)ということもあり、日本語が通じ、過ごしやすかったです。しかし日本語でブランド物を勧められているうちに複雑な心境になってきました。海外に来たという実感が薄れ、ブランド物にとびつくという日本人のイメージの浸透が悲しく思えてきました。

カナダの人々の温かさがとても印象的！

2度目はこの冬休み、1週間のホームステイを含む10日間のカナダ旅行でした。安芸ライオンズクラブとあちらのクラブとの交流を兼ね、マーティンズ先生と学生3人で行って来ました。ホームステイ期間のことを考えると不安と緊張でいっぱいでしたが、これまで中学校から8年間も学んで

現代社会学部

学生の国際交流

きたつもりの英語がどれほど通じないのか楽しみでもありました。結果は予想を通り越し、自分の英語力のなさや努力不足に情けない思いが募りました。そんな私達にもゆっくりと積極的に話し掛けてきてくれたカナダの人々のあたたかさがとても印象的でした。旅のメンバーの一人は車椅子を利用していましたが、協力的な人々や整った設備のおかげで、日本よりも過ごしやすと感じたようです。カナダはとても親日的な国というだけでなく、日本より「～できない」ことに寛大なお国柄を実感しました。

滞在中私が強く印象に残ったのはカナダの大学生についての話です。家も出て自立し、長期休暇のアルバイトで稼いだお金を学費にあてています。日本の大学生と比べ、学ぶことと自立することへの姿勢が生半可なものではないのです。話を聞きながら日本の「学力低下」の文字が頭をちらつきました。

主体性の確立を心にきめる -

これらの旅行は私に、改めて日本を見つめなおす機会を与えてくれました。本場のクリスマスも体験でき、中でも教会でのミサには涙が出るほど感動しました。美しい景色、出会った人々、様々な貴重な体験など、非日常的な出来事が私の日常を変え始めています。

講義が行われるのが当たり前の日常ではなく、講義を受け学びとることが当たり前の日常とし、自信を持った自分を確立していこうと改めて思いました。



ホームステイ報告会

自立したい！という強い思い



私は耳に障害があり4年生の前期に手術をしたため、3年生の冬からの「就職活動」をしていませんでした。しかし、私自身家族に頼って生きるよりできるだけで働いて自立したいという強い思いがありました。それで、先生や就職課の方々の紹介で11月の障害者対象の合同企業説明会に参加したのです。呉信用金庫の方と面接し、結果的に一般として内定をもらいました。内定をいただくまで3回の面接と1回の試験がありました。おそろしく前向きな性格と向上心が評価されたのだと思います。今は簿記の資格を取るために勉強し、今後も業務に関連する資格を取得していきたいと思っています。私の経験は後輩の皆さんの参考にはならないかもしれませんが、私は障害があったとしても明るく前向きに生きることはできる、ということをお伝えしたいと思います。

ほっ！私の就職活動
現代社会学部 平成十四年度卒業
岡山 奈津子

第1期生の卒業論文が132件出ました。詳しくは『現代社会学入門 4号』で

= 相互評価を実施 = 愛知工大短大部と本学部で

平成11年度短期大学設置基準の一部改正により、「自己点検・評価」の公表が義務づけられ、他の短大との相互評価が求められていた。

本学部は、平成14年7月「平成12、13年度自己点検・評価報告書第2巻」を発刊し、愛知工科大学短期大学部と相互訪問をし、「自己点検・評価報告書」の内容について相互評価を実施した。

まず、昨年(平成13年)の10月18日、19日に、本学部の学長以下3名が愛知工科大学短期大学部を訪問した。学内見学の後、訪問校の「自己点検・評価報告書」の中から10件ほど質問をし、それについての回答を得て、意見を交わした。

次いで、去る12月20日に、愛知工科大学短期大学部から、学長以下4名が本学部を来訪された。午前中は学内見学をし、午後には本学部への質問事項10件について熱心に討議した。

実施内容については、「相互評価報告書」を平成15年3月に発行し、短大基準協会、日本私立短大協会、7つの自動車短大等に配付した。



実習場見学



本学部での相互評価実施風景

高い就職率を堅持！

短期 大学部

- 技術講演・会社説明会を開く -



短大部長の現況説明



会社側からの説明

2月3(日)~5(水)の3日間、国内全メーカー系列ディーラー(75名)による技術講演・会社説明会が短大部内で行われた。

全員がリクルートスーツで出席し、会社の特色や訪問日程などを真剣な面持ちでメモしていた。

ディーラーへの就職を希望する学生は、この後、会社訪問、採用試験と本格的な就職活動に入る。



熱心に聞く学生！

志願者2300名を越える 高校 から発信

—2003年度一般入学試験—

去る2月13・14日に2003年度の入学試験が実施された。今年は前年度を上回る2300余名の志願者があり、会場案内のある中庭は受験生でごった返していた。受験生達は中学校や塾の先生方の激励をうけ、緊張の面持ちで試験会場に入っていった。



校肉マラソン大会!
坂周回コースにて
潮風を受けて疾走!



去る2月23日(日)、校内マラソン大会が開催された。

今年は、例年行っていた太田川河川敷から坂中学校をスタート・ゴールとする坂町周回コースに場所を変更して実施された。前日まで降り続いた雨もあがり、時折寒風が吹くものの春を思わせるような日差しで暖かく絶好のマラソン日和であった。レースは、1年男子の部・2年男子の部(10km)、女子の部(5km)で行われた。生徒たちは、数ヶ月前から、体育の時間などを利用して練習し、この校内マラソン大会に備えてきた。各生徒は、「全員が自分の持てる力を出し切る」と言う大会の目標に向かいゴールめざして力走した。

リサイクルパソコン
研究課題で製作—
—総合システム科3年生課題研究—

「スイッチON...ワー、動いたゾー」。去年の11月。システム科3年の課題研究に取り組んでいた生徒の歓声が実習室に湧き起こった。Made in S3-3パソコンが見事に作動し、ディスプレイに初期画像を映し出した瞬間である。テーマは「リサイクルパソコンの製作」である。「ただ部品を組み立てるだけでは面白くない。PC-9801シリーズの部品で使えるものは利用し、生徒が試行錯誤を繰り返しながらコンピュータの基本構成を理解して欲しい」と指導したのは北先生。生徒たちは慣れない手つきで、PC-9801Vmのケースのリフォーム作業にとりかかった。ケースの穴明け作業などが思うように進まなくなると「ほんまにチャンと動くんだろうか?」という不安な気持ちがチラリ。しかし、この不安もケースの中がCD-ROM・FDD・HDDなどで埋まって行くにつれ「1日でも早く、自分たちのパソコンを作りあげたい」という熱意に変わってきた。このように生徒たちが手塩に掛けて完成したMade in S3-3のパソコン。最初の出番は文化祭である。その日、ゲーム・ソフトをインストールされたパソコンは会場を訪れた中学生を相手に奮闘していた。身の回りの「使える物は、また使おう」



やれるかな—

が活かされた「リサイクルパソコン」。そこには自分たちで協力しながら課題作品を完成させたモノ作りの感動があった。



個人各優勝者

2年男子の部
井上大輔(システム科2組)
1年男子の部
西澤亮平(システム科2組)
女子の部
森田麻希(普通科2年2組)

年賀状作成教室をひらく!

—総合システム科—
保護者・教員の皆さんどうぞ!

パソコンで手作りの年賀状を楽しんでもらおう!! というわけで、保護者を対象に総合システム科が企画した「年賀状作成教室」。昨年11月下旬、情報教育の拠点となる「マルチメディア教室」で行った。初めてパソコンと向き合った保護者の方は、画像の一瞬の取り込みやカラー刷り年賀状のできればえに思わずニコリ。また、ある保護者は「大変分かりやすく説明していただき、雰囲気も和気あいあいとリラックスして受講できました。

次は、今やっていることがどういう意味を持っているかも知りたい」とすでに2回目の開催を心待ちにしているとの感想を寄せた。



真剣そのもの!



えーと！えーと！うまくいくな？

らの資料でロボットの基礎を学び、ようやくソフトの起動にとりかかった。

講習会は10時から3時まで。限られた時間内にレゴブロックでロボットを組み立て、プログラムを実行する、という一連の作業に戸惑いをみせる子も。中学生は各自一台を組み立てるが、小学生は二人一組でも思うように部品が見つからず苦戦したようだ。スタッフはあちこちから助けを求められ、子供たちと一緒に丁寧な部品を探す。プロジェクターで次の指示をしようとしても、必死の子供たちには聞こえない様子。だがそこは横山さん。冷静に対処しスタッフとも連携して授業を締めくくり、見事に講師役の重責を果たした。

今回のこの経験を糧に、学生が全力で課題に挑戦し、どのような事態にも対応できる知識と技量を身に付けて卒業してほしいものである。

去る12月25日、本学中野キャンパス10号館2階情報工学科実験室で「ロボット講習会」が行われた。本誌第52号で紹介した横山佳奈さんが講師にチャレンジ。海田町在住の児童生徒14名を指導した。

まず、情報工学科の檜高主任教授が「この大学でもの作りの楽しさを十分に実感してください」とあいさつした。講師の横山さん、スタッフの池坊繁屋君・今岡慶彦君・野窪大輔君はこの日のために自分たちでテキストを作成。このほかにわかりやすい手順書も準備した。子供たちはこれ

ーロボット教室をひらくー

講師 工学部情報工学科 平成14年度卒業 よこやまかな 横山佳奈さん

海田公民館・工学部情報工学科



真剣！プログラム入力！



平成十四年度
理事長表彰受賞者
広島国際学院高等学校部活動成績優秀者

部名	個人種目・団体別	受賞者	出場大会名	成績
自転車部	個人ロードレース	森 良(2年)	平成14年度全国高等学校総合体育大会	7位
	団体ロードレース	森 良(2年) 寺川 慧(3年) 流田 裕士(3年) 藤岡 順平(3年)	平成14年度中国地域高等学校対抗自転車競技選手権大会	優勝
	個人ロードレース	寺川 慧(3年)	同上	優勝
	個人ポイントレース	森 良(2年)	同上	優勝
レスリング部	個人フリースタイル130kg級	谷本 弘蔵(2年)	第57回国民体育大会秋季大会	3位
	個人フリースタイル130kg級	谷本 弘蔵(2年)	第41回中国高等学校レスリング選手権大会	優勝
柔道部	個人 女子48kg級	平岡 由紀(3年)	第24回全国高等学校柔道選手権大会	5位
吹奏楽部	団体 吹奏楽の部		全国高等学校吹奏楽大会 in 横浜	連盟会長賞

学生時代の思い出と社会人になって思うこと

広島国際学院大学の卒業生として、

誇りをもってがんばりたい！

平成13年3月 工学部 電気工学科卒業 鶴亀恒久

私は工学部電気工学科に在籍し、電気のスベシヤリストを目指し学びました。以前より地球環境に興味があり、何とかしたいなと思っていました。現在、新エネルギー、クリーンエネルギーに関する仕事をしています。

地球温暖化、エネルギー資源枯渇と我々の生活に大きな影響を及ぼす地球規模の問題があります。そういった中、太陽光発電、風力発電、燃料電池、コージェネ等新エネルギーといわれるもので、少しでもその問題に取り組みたいと私は思っています。新しいことやものに挑戦することはやりがいがあり大変おもしろいです。

学生時代、もっと実験をしたり、物を作ったり、教授に質問をしに行ったりすればよかったなと社会にでて痛感しています。特に太陽電池、風力発電などは、研究されている教授がおられたので、嬉しいことをしました。



新エネルギーに取り組む！

職場では太陽電池モジュールやシステムの設計・製作、施工・メンテナンス等を行っています。最近では、標高約2000mに位置する群馬県の谷川岳避難小屋に太陽光と風力発電システムを設置しました。これはトイレの浄化槽の電源として利用されます。谷川岳を訪れる機会があれば一度立ち寄ってみてください。

最後になりましたが、今後も本大学で学んだことを生かし、広島国際学院大学をいつそう盛り立てられるように卒業生として誇りを持って頑張りたいと思います。



誇りをもって！

4年前の入学式、それは今まで味わったことのない男子校のような雰囲気と、パソコンもほとんど触ったことがなく、ソフトウェアとハードウェアの違いすら分からない私にとって、不安な気持ちを抱いた大学生活の始まりでした。

あれから4年という月日が経とうとしていますが、今ではあの不安の居場所なんて見つからないほど、楽しくて充実しています。時に辛い事もあったけど、いつも支えてくれる

友人や先輩、いろいろな人との関わりの中で自分自身が成長出来たと思います。もちろん情報工学科で学んだプログラミング技術や実験などは、理解に時間がかかり、レポート作成に苦労したりしたからこそだと、今でも強く印象に残っています。私は、これらの学んだことを活かせるSEの仕事に大変興味を持っています。いつか自分が携わったシステムが利用者に喜ばれることが出来たら嬉しいと思います。

今は、卒業研究の目標が明確に定まり、それに



卒業できる！と爽やかに笑う

不安から成長へ

私の大学生活

工学部情報工学科 平成14年度卒業

うえ やま のり こ
上山典子

向かって頑張っています。問題をやってもすぐ解答を見てしまう私にとって、決まった答えがない研究は行き詰ることが多く、悩んでばかりです。しかし、その分理解できた

喜びは大きいし、やりがいも感じます。先生に相談したり、授業で習ったことを思い出したりしながら、目標に向かって打ち込んでいます。なんとか完成させて、これを自信につなげていきたいです。そして、現状で満足せず、新しいことに次々とチャレンジしようと思います。

自動車に「夢」賭ける

自動車短期大学部 平成十四年度卒業 小堀 優子



この大学に入れて幸せ者ですと微笑む

たのです。やり遂げられたのです。それは紛れもなく私なりに、この夢に賭ける強い思いがあったからこそでした。そして全ての辛い勉強も、整備士になる為の通り道なのだと思います。

この大学生活、もちろん苦しいことだけではありませんでした。初めての自動車に関わる授業、とても楽しくて、特に実習の時間にエンジンを分解し、それをまた組み立てた後、エンジンがかかった時のあの感動は忘れられません。先生方には、授業が終わった後などよく質問に行ったものです。どの先生もおもしろく、優しいし、とても気軽に話しかけやすい方ばかりで、その度に私は思ったのです。「この学校は何が違う。この大学に入ることができて私は本当に幸せもんだっただけだ。新しい友達との出会いも最高でした。みんなと毎日を楽しんで、笑わない日はないほどでした。

最高の大学生活を送れたのは、素晴らしい先生方と友人たちのおかげだったと強く思っています。

もうじき卒業ですが、仕事だけでなく自分の内面ももっと磨いて、向上心を忘れず、人に優しい立派な社会人になること。それが私のこれからの目標です。



人に優しく向上心を忘れず！

日本で学ぶ留学生の思い 高校で講演！

大学院2年生 楊 巍さん

昨年、広島国際学院高等学校のPTA研修会に、本学の大学院生（物質工学専攻）の楊巍(ヨウ・ギ)さんが講師に招かれた。研修会には、PTA役員や保護者約50名が参加した。楊さんは中国黒龍江省ハルピン出身で約2年前に留学生として来日し、本学大学院に在学中である。

講演は「日本で学ぶ留学生の思い」と題し、プロジェクターを使って約1時間行われた。生まれ育った自然豊かで美しい中国ハルピンの写真や話から始まった。特にハルピンの寒い冬の説明がされると参加者にどよめきが沸きあがった。中国の状況や中国の学生達はどんな思いで勉強しているかなどが語られる。中国では、学校や大学で修得した技術やノウハウを祖国でいかに生かすかを考えて勉強していることが話された。「日本の学生とは違うね」などの声が聞こえる。



優しくしっかりした日本語で話す -



静かな笑顔で語る！

流暢とはいえないが、話す日本語もしっかりしていて、日本における生活を通じた日本人の印象、日本の学生が勉強しないことなど皮肉も交え多彩な話題でユーモアに溢れていた。

楊巍さんから「日本の小学生が何故あんなに薄着なのか不思議だ。薄着は本当に健康的？寒いときには寒いりの服装が自然なのでは？」との疑問も投げかけられた。保護者からは、中国の国情から本場ギョウザの作り方などの質問が飛び交い、会場は和やかな雰囲気であふれていた。

楊巍さんから「日本の小学生が何故あんなに薄着なのか不思議だ。薄着は本当に健康的？寒いときには寒いりの服装が自然なのでは？」との疑問も投げかけられた。保護者からは、中国の国情から本場ギョウザの作り方などの質問が飛び交い、会場は和やかな雰囲気であふれていた。

広島と原爆

戦争は、してはならない!

講師 学長 は さい ひろ み
葉佐井 博 巳

広島が決して忘れることのできない原子爆弾。葉佐井学長が「広島と原爆」と題し原爆被害の実相と放射線について語った。学長の専門は原子核物理学。現在でも広島原爆の放射線について調査しているので、特に詳しく述べた。

まず、自ら体験した原爆投下後の広島市や被爆者の悲惨な状況をはじめ、当時の世界情勢と原爆開発の歴史にも触れた。次に原爆そのものを解説するために、通常爆弾と比較した。原子爆弾は核反応、通常爆弾は化学反応と爆発機構が異なる。したがって放出されるエネルギーの形状や大きさ、影響も違うのである。具体的に、東京大空襲と広島原爆で比べてみよう。被害そのものはどちらも大差ない。だが、通常爆弾が爆風と火災を引き起こすのに対し、原爆は放射線と強力なエネルギーを一気に放出する。そのため被害状況は大きく変わった。

原子爆弾からの放射線は爆発する前の段階で放出されはじめた。その後爆発により高温の火球と同時に衝

撃波が発生し、瞬間的に大きな圧力を生む。これが周囲の建物を破壊し、都市火災の元になる。この間わずか10秒間、予測していない限り誰

も逃げることはできない。原爆が無差別爆弾と呼ばれるゆえんである。こうして広島は一瞬にして完全に破壊され、瓦礫の都市と化した。その後発生したキノコ雲は塵や核分裂破片である放射能を帯びた物質「黒い雨」を市の北西部に降らせた。放射線は爆発と同時に、大量の放射能を帯びた物質を爆心付近に誘導した。これが直後に入市した人の二次被曝の原因となった。放射線を浴びた人は、原爆後遺症でいつまでも苦しんだ。

最後に、原爆が建物や人体に及ぼした影響はどのようなものだったか。爆風被害の実態と、熱線と放射線による火傷の違いについて実体験も交え受講者に語りかけた。また放射能汚染（一次・二次放射線）にも触れ、爆発後の経過時間に対する残留放射線量をグラフで示しながら説明した。

原子爆弾のメカニズムと破壊的な威力を伝え、科学者として「戦争は、してはならない」と訴えた学長の言葉は重い。



「広島学事始め」- 講演会から -
地域共同教育研究センター

広島社会

とくに魅力はないが

～データが語るヒロシマ～ 住んでいたい!

講師 現代社会学部長 あたらし むつん ど
新 睦 人

社会学の見地から「広島」の地域性をほりさげた話であった。私たちが暮らす現代の社会は完成された近代社会だと思いがちだが、現実には「近代化している社会」、完成されつつある社会なのだということを承知しておくことが肝要である。多様なデータをもとに「広島人気質」を探り、その広島人が形成する町を「都市化」という視点から見ると、広島は「近代都市形成の一般的なパターン」からはかなりの隔りがある。

<魅力ある都市>という基準で、住民アンケート調査と統計的データによると、現状の「広島」は中国地方でも低い位置にある。このことを広島人はどう受けとめるであろうか? <魅力ある都市か>との問いには、<思う、思わない>のどちらもパーセン

テージは高くない。<住みたいか>の問いには、<住みたいと思う>が高い割合を占める。内容的には「都市としての魅力には乏しいが、住んでいたい町はある」、「積極的な愛着はないが、動きたくない」と人びとは思っている。伝統的な地縁や血縁で結節された緊密なネットワークが都市形成の基盤となっていることと密接に関連しているものと考えられる。

では、<近代的な都市化が進み人びとの移動が活発になる>という前提で都市を造ってこなかった、広島の問題はどこにあるのか? 広島を広域で考えるとき、西の快適居住区にのびるだけでなく、東部地域への進出を視野にベルト地帯を展望し、産業力のアップを期待し基盤整備を果たすことはできないか。また、物財、人間、情報、お金が交錯し交流する市中心部の消費人口を増幅させ活性化する方法も模索する必要があるかと結んだ。



— 前、本学監事 植田高明様のご遺族からご寄附を受ける —

ご生前には本学の監事を8年間お務めいただきました。地域の広範な分野でご尽瘁があり、とりわけ本学理事長とご懇意で、多大な御支援を受けました。さらに、このたびご厚志を忝けのうし、深く感謝の誠をささげます。

工学部 機械工学科

うつ みの あ
内海能亜 研究室



指導教員は誰かな？

かっており、学生達の実験の指導や卒業論文のチェックに追われている。

本研究室は私と7名の学部生で構成され、研究テーマは3件、実験的研究と市販の汎用解析ソフトを用いたシミュレーションの開発を行っている。機械設計やモノづくりに興味のある学生には前者を、パソコンが得意な学生には後者を担当させている。フィールドは塑性加工に関する研究である。本年度は自動車のフレームや建築資材などに適用されている

アルミニウム押出型材を曲げる加工機を試作した。世の中に例を見ない加工機である。今のところ良好な曲げ加工が得られていないが、次年度の学生のために課題を残している！？また、曲げ加工機の開発や実験にもなうトライアンドエラーを軽減するために、本加工法のシミュレーションも表現することが可能となった。

学生達はそれぞれのテーマでベストを尽くしている。

将来、私の研究室を卒業してゆく学生諸君がこの社会に貢献する立派なカンジニアになることを切に願う。そのためにも、私はモノづくりの難しさとその達成感を肌で感じることのできるエンジニアを今後とも育成してゆきたい。



シミュレーション

本学に私の研究室を構えてから、この3月で1年になる。私は教員としてはじめて研究室の学生を卒業させることになる。現在、卒業研究の追い込みに差し掛

研究室紹介



曲げ加工機（試作機）

い。

現代社会学部

いそ べ たく ぞう
磯部卓三 研究室



研究室にて

私の研究テーマの第1は、価値の社会心理、とくに道徳のコミュニケーションである。他人や自分にあることを勧め、あるいは命令するようなコミュニケーションがどのような性質をもつのか、どのような結果をもたらすのかという問題である。なかでも注目しているのが抽象的な言葉の働きである。たと

えば、児童虐待などに関して、子どもの愛し方がわからないというような親の悩みが紹介されたりする。しかし、どうして愛し方が問題になるのか。

少なくとも、私たちの世代の親たちは、こうした言葉で親子関係を語ることはなかった。そこで、愛という言葉を使ったコミュニケーションを改めて分析してみたいとなるわけである。

私は、これまで理想主義や過剰な規範意識から非難や攻撃の生まれるメカニズムに関心をもってきた。現代は規範意識の欠如が問題だという人が多い。しかし、二つは同じ根をもっているところも多いように思う。最近の犯罪などにそうした面が見られる。この点は今後の課題である。

研究テーマの第2は、動機や知識と行為との関係である。社会学では「行為の意図せざる結果」というテーマで知られている。このテーマについても「思い通りにいかない」場合、「思いとは逆になってしまう」場合に焦点を当てながら、動機や知識と行為との間に橋をかける作業に携わりたいと思っている。この方面はまだ始めたばかりであり、どうなるかわからないが、経済と宗教や道徳との関係を見なおすことに繋がるのではないかと、思っている。

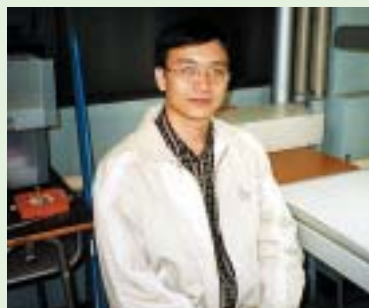
本学大学院で初の外国人博士誕生！

生体材料学研究室

教授

佐々木

健



チャリン・テチャプン新博士

このたび本学では初めて、当研究室で外国人博士（論文博士）が誕生した。新博士はチャリン・テチャプン氏（31才）で、タイ・チェンマイ大学バイオテクノロジー学科の常勤講師。中国新聞（平成14年12月28日付朝刊）でも大きく報道された。

当研究室は、文部科学省拠点研究交流（JSPS）に、5年前より参加。山口大学を拠点に他の国立大学とともにタイの各大学と研究交流を進めている。テチャプン氏は4年前から年1〜2回、JSPS基金で来室し研究を続け、つ

いに博士号取得となった。本学で3番目、初の外国人博士（工学）である。

研究テーマは、農産廃棄物を利用したバルブや古紙のバイオ漂白である。塩素を使わずダイオキシンなど、有害環境ホルモンを全く出さない新バイオ技術を、世界にさががけ開発したものだ。現在、世界中で最も安定した耐久性のあるバルブバイオ技術である。しかも農産廃棄物のリサイクルなので、低コストで地球にやさしい技術と注目されている。

学位論文は発表論文9編か



タイ・チェンマイ大学バイオテクノロジー学科スタッフ
後列右から2人目テチャプン博士、前列右から3人目
筆者の隣り、ナイヤタット・ブーサーン前農学部



英語で講演 博士論文公聴会

ら構成されている。この業績はタイの国立大学長で組織する定例の委員会でも話題となり、高く評価された。通常、広島大学など日本の国立大学でも3〜6編の発表論文で博士号取得の可能性ができる。だがテチャプン博士は9編で認定を受けた。本学大学院はレベルが高いと注目されたようである。

今後とも国内外を問わずすぐれた博士を世に出すよう、国際交流も含めて努力を続けていく。

- 大学新評価の基準 - 適合認定を受ける！

本学は、平成12年度における財団法人「大学基準協会」の加盟審査の結果、大学基準に適合しているとして正会員の認定を受けた。

「大学基準協会」は昭和22年に創設され、50余年の実績をもつわが国最大の権威ある大学評価認証機関である。現在281の国・公・私立大学が加盟している。

同協会は、平成8年度より「大学の適格判定制度」を全面的に見直し、「新大学評価システム」を導入した。本学がこの制度により、「新制度の適合認定大学」とされた。同協会は積極的に社会へ【高い質の保障】をすとして、認定を受けたことの公表とPRを奨励している。

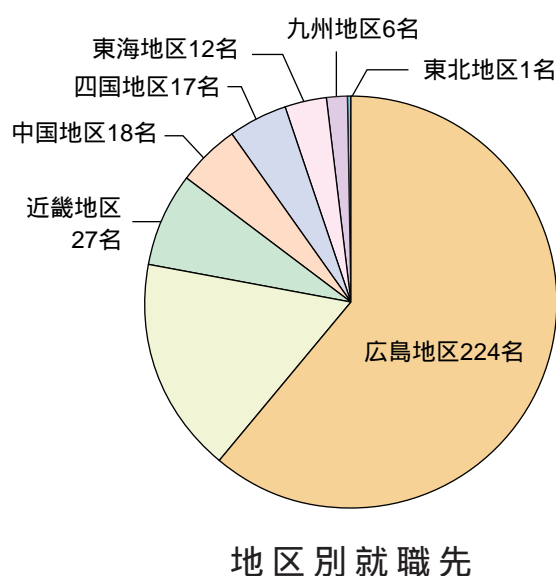
県下の加盟私立大学の中で、該当するのは本学のみである。このたび、新たに「認定証」・「認定マーク」が交付されたことを受けて、今後は本学も積極的にこのことをPRすることとなった。



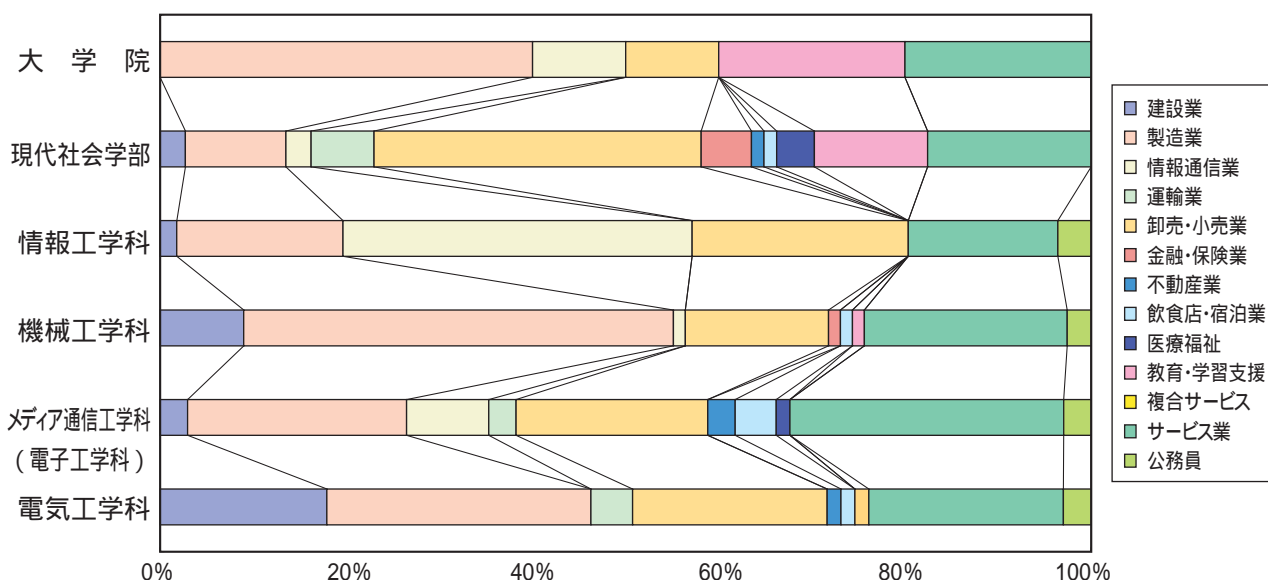
- ・ 厳しい国際競争のもとで企業が求める「目標達成能力」、「問題解決能力」のある人材の育成に努めています。
- ・ 従来から元気で実践力のある学生を育てており、実社会での活躍が評価され毎年10倍以上の求人倍率による高い就職率を達成しています。
- ・ 就職模擬試験をはじめ面接・作文の指導など、学生の就職活動を就職部と教員がきめ細かくサポートします。

就職状況

項目	電気工学	電子工学	機械工学	情報工学	工学部計	現社部計	大学院	
卒業・修了者総数(人)	113	109	107	100	429	132	25	
就職希望者数(人)	92	83	90	66	331	100	20	
採用内定者数(人)	71	69	82	57	279	78	10	
就職率	78%	84%	92%	87%	85%	78%	50%	
就職率(前年度)	92%	96%	90%	96%	93%	-	50%	
進学	5	2	6	6	19	6	0	
求人状況	会社数	1,107	1,078	1,097	1,028	1,189	883	374
	求人数	1,157	1,111	1,144	1,047	4,460	884	873
	求人倍率	13倍	13倍	13倍	16倍	13倍	9倍	46倍



業種別就職状況

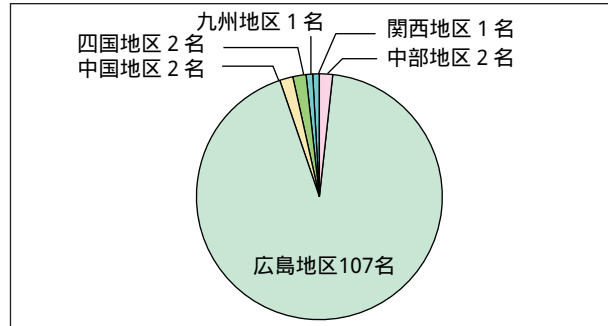


平成14年度
広島国際学院大学自動車短期大学部進路状況
 平成15年3月19日現在

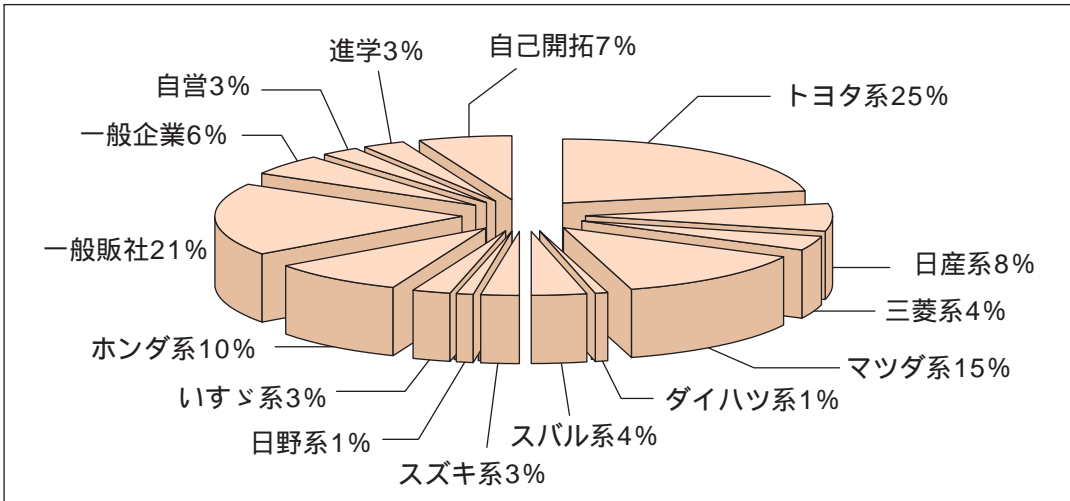
2002年度就職状況

卒業生数	135名
就職決定者/希望者	114名 / 117名
進学決定者/希望者	7名 / 7名 (専攻科:5名見込みを含む)
その他	14名

地域別就職状況



卒業生の進路内訳



平成14年度

広島国際学院高等学校卒業生進路状況

平成15年3月19日現在

学 科	性別	在籍	進 学				就 職						
			大学	短大	専門	未定	県内	県外	公務員	自営	自己	未定	
総合システム科	男	138	54	10	41	4	12			2	7	7	0
	女	6	1	1	2							2	0
普 通 科	男	188	111	3	29	41	3					2	0
	女	154	40	39	39	16	12	1	1			6	0
合 計		486	206	53	111	61	27	1	3	7	17	0	
		%	88.7%				11.3%						

主な進学先 (合格先)

奈良教育大・岡山大・愛媛大・宮崎大・長崎大・広島市立大・釧路公立大・水産大・早稲田大・立教大・青山学院大・東京理科大・日本大・同志社大・立命館大・関西学院大・関西大・広島修道大・近畿大・広島工業大・広島経済大・安田女子大・広島国際大・広島国際学院大・広島女学院大・呉大・エリザベト音楽大・福山大・比治山大・広島文教女子大・岡山理科大・岡山商科大・吉備国際大・川崎医療福祉大・くらしき作陽大・美作大・東北文化学園大・帝京大・杏林大・桜美林大・北陸大・金沢工業大・中京大・阪南大・龍谷大・大谷大・京都学園大・大阪学院大・佛教大・大阪芸術大・大阪商業大・神戸学院大・神戸国際大・近畿福祉大・聖和大・大阪経済法科大・成安造形大・京都造形芸術大・東亜大・徳山大・松山大・福岡大・福岡工業大・別府大・福山市立女子短大・安田女子短大・比治山大短大・鈴峯女子短大・山陽女子短大・岩国短大・広島文化短大・広島国際学院大短大・愛媛女子短大・九州女子短大・女子美術大短大・大阪芸術大短大・聖和大短大・関西女子短大・広島市立看護専門・広島市医師会看護専門・尾道市医師会看護専門・国際医療福祉総合学院・県立広島高等技術専門・広島Y M C A国際ビジネス専門・広島コンピュータ専門・広島ビジネス専門・広島外語専門・県理美容専門・広島工学院専門・広島工業大学専門・広島情報専門・広島電子専門・広島製菓専門・広島福祉専門・広島健康福祉専門・広島医療保健専門・広島経営学院専門・広島美容専門・マインド美容専門・IGL医療専門・広島歯科衛生士専門・穴吹デザイン専門・関西自動車整備専門・辻調理師専門・美萩野臨床医学専門学校・広島アニマルケア専門・広島会計学院専門・広島歯科技術専門・広島情報ビジネス専門・広島酔心調理師専門・ホンダ関西自動車整備専門

主な就職先

マツダ・中国製螺・神保・トーワテクノ・海田金属・マツダ鉄工・大野石油店・広島伊丹電機・双葉運輸・マイクロテクノ・ナガイパン・フジ・酔心・山九・中川外科胃腸科・山地内科医院・プリンスホテル・原田病院・松石病院・河石記念病院・スタジオラティア・自衛隊・ヘヤーサロン西林・むさし・(株)三宅



理事長退任

名誉学院長就任にあたって

西本五郎



今ふりかえり思う

私は現在84才、あと5ヶ月で85才になります。加齢と共に体力の限界を感じ、この3月で理事長を退任いたしました。4月からはこれまで私を補佐してくれた鶴副理事長が6代目の理事長に就任します。私と同様のご指導とご支援の程、よろしく願いいたします。

終戦後、僅か生徒数56名で鶴虎太郎先生と共に、灰塵に帰した焼け跡から立ち上がって59年が経ちました。途中RKB毎日に5年間勤務後、2代理事長鶴猛先生の要望に答え学園に復帰してから46年。その間には学園長18年、理事長を28年、附属高校の校長職や大学の学長職、また私立の大学、短大、高校等の各協会の要職も担当させて頂きました。

無からの出発ではありませんが、幸い経済成長と子供の急増期等によって、現在では所有地約33万3千、学生・生徒数約4000人、卒業学生・生徒数約4万9千人を擁する学院に拡充発展いたしました。しかしそのことは一人、私個人の力量と才覚によるものとは考えておりません。一重に歴代の理事長を初め学院関係者の不断の努力と、ご支援くださった皆様のお陰とっております。

4月からは名誉学院長・理事として残りますが、学院は私の魂であります。今後とも鶴理事長を初め、教職員を支援協力していく所存であります。現在の心境はあのマッカーサーが言った「我未だ死せず、唯去るのみ」であり、まさに「人事を尽くして天命を待つ」の思いであります。

私学を取り巻く環境は日々厳しさを加えております。現況下、不朽の存在の学院であることを願っております。学院の皆さん、今こそ真剣な総力の結集が望まれます。「できる、やれば出来る、やるう、皆でやるう」共に頑張りましょう。学院をご支援くださる皆様、どうかお力添えをください。

理事長に就任して

鶴 素直



楽しく学べる 「家族的な学校」 をめざして -

このたび私は、西本理事長の後任として理事長に選任されました。前理事長は昭和20年代から現在まで約50年間に亘って学院の発展にご尽力され、着実な経営により我が学院の礎を築かれました。そのご功績を思うとき、責任の重みに身の引き締まるのを覚えます。

学校を取り巻く環境は大きく変動しています。少子化、大学においては大衆化、さらに規制緩和とそれに伴う自己責任で学校間の競争は激化しています。環境が変化しているわけですから、これに適應できる体質を作っていくことが必要です。それはソフトとハードの両面です。

現在大学では、社会のニーズにあった個性ある学部改組や新学科増設、さらに社会貢献の場として、市街地にサテライト教室の設置を検討しています。財務環境はさらに厳しくなりますが、何もしないリスクよりは攻勢をかけるリスクを選択すべきだと判断からです。学生のニーズや資質の変化に応える力こそ求められなければなりません。

大学の使命である教育、研究、社会貢献はそれぞれ最良であることが求められますが、私はまず学生第一でありたいと考えています。それは短大、高校においても同じです。学んで楽しい教育の場として、「分かる授業」の実現や魅力ある環境の整備が必要です。学生生徒一人ひとりを大切に迎えるとともに、その職責を果たしていく教職員も大切にされなくてはなりません。小規模校のメリットを生かした「家族的な学校」を目指して、入学から就職まで親身になって、学生・生徒の面倒を見て、その地道な努力が社会から評価されるように努めたい。学生・生徒が生き生きと学習し、教職員が活発に動き回る学院であらねばと願っています。

大変微力ではありますが、前任者のご功績を無駄にしないよう全力を尽くしますので、ご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

家族的な 広島国際学院